

## 1 行政全般

## (1) 行革甲子園への参加

愛媛県が主催し、全国知事会他11の報道各社が後援する行革甲子園と呼ばれるイベントがある。全国の取り組み事例について発表と情報交換をし、良いところを取り入れていこうという趣旨のものである。静岡県内では浜松市が応募し事例発表を行っている。磐田市も行革に関する事例としては全国に負けず劣らず、胸を張って紹介できるものも多くある。こうした機会を使ってPRも兼ね参加してみてもどうか。

## (2) 防災対策

昨年は大きな自然災害に見舞われた一年であった。特に西日本豪雨による罹災は、大きな河川に囲まれた磐田市は他人事ではない。避難所においても様々な対応が迫られるが、特にトイレは大変難儀な課題である。

- ① 避難所での循環型シャワーの導入の検討
- ② 避難所での仮設トイレの確保と洋式化
- ③ 仿僧川堤防の強度調査の実施

磐田市が一番川下に位置する福田の南部地域は、一旦堤防が決壊したり、越流すると大きな池の状態となることが想定される。また南海トラフの地震では津波浸水想定シミュレーションで最大75%が沈下する試算も出ている。地元の住民にとって堤防の強度は死活問題ともいえる。強度が分かればそれなりの対応もできることから調査の実施を要望するがいかがか。

- ④ 発泡スチロール製防災建物の避難所や公共施設への設置の検討

## 2 地域づくり（地民官連携）

### (1) 食品ロス削減

賞味期限切れの食品廃棄は社会問題化してきている。実にもったいない話であり、多くの店舗で賞味期限の迫った食品の半額等の割引やポイント還元、最近ではスマホを活用した取り組みもしている。食品をできるだけ残さない、あるいは捨てないためにも、大型店舗（スーパー）や個店等事業者と連携した取り組みができないか伺う。

また、その日のうちに使うものは棚の前からとか、親子連れも多いことも鑑みれば、子どもたちへの啓発も極めて大切なことである。それぞれの役割を果たす中で、市民の意識啓発や学校・消費者団体・商工団体と連携した取り組みはできるものと思うがいかがか。

### (2) 渚の交流館の活用

全国で道の駅づくりとともに、道の駅を活用した防災拠点づくりや地域活性化への取り組みが進んでいる。道の駅も新しいものになればなるほどゴージャスになり、機能も多機能化しているが、渚の交流館を道の駅として活用できないか伺う。

### (3) 地域課題へのかかわり

地域には大小の課題が山積しているが、その多くは地域で解決すべき課題である。しかし、自治会長等自治会役員の交代や就業年齢が高くなり、役員を選ぶにも大変苦勞をしており、問題や課題の先送りをしなければならない状況でもある。また人により考え方も変わってくることから一貫性にかけてしまうこともある。地域づくりはこれからの行政には欠かせない極めて重要な施策である。そこで以下を伺う。

- ① 人材がいないとよく聞くが、いなければ一定期間にコストをかけて、指導助言ができる団体若しくは個人の育成を図ればよい。地域づくりのアドバイス及び人材支援のための専門家とのアドバイザーの設置について伺う。

- ② 自治基本条例制定に向けた事業着手は万感の思いがある。地域づくり協議会と交流センターの整備・設置から今後は中身が問われることになる。条例には地域づくりに関することが軸になると思われるが、地域づくり協議会のこれまでの課題を伺う。

### 3 教育全般

#### (1) キャリア教育

##### ① 雇用形態や権利義務について（中学生）

働き方が問われ、外国人の門戸も広がっていく。キャリア教育は一つの仕事を体験・経験することだけではない。むしろ大切なのは、正規・非正規等雇用形態や労働基本権といった労使双方の権利義務関係といった基本的な事柄を学ぶことで、働くことの意義や意味を意識の中で育てていくものである。ハローワークや民間企業等を活用し、働き方の入り口部分について学びをしていくべきと思うがいかがか。

##### ② 小遣いの使い方（小学生）

良くも悪くもキャッシュレス時代が到来する。見えないお金との付き合いをどう教え、意識を育てていくかはお金を巡るトラブルを防ぐためにも重要。考えを伺う。